



竹田 ゆかり 市政通信

〒248-0024 鎌倉市稲村ガ崎 5-31-11

TEL 090-3535-4474 E-mail yukari.ain@gmail.com

「緊急提言」は出されたけれど

遅々として進まぬ 働き方改革

一般質問より

10年前、教員が多忙であることの問題性を議会で取り上げると、「忙しいのはどんな仕事も同じだよ。教員に楽をさせたいのか」というヤジが議場で飛んだ。「教員の多忙」に政府が本気で向き合っていない感じが今、学校現場に何をもちがらしているのか。

「教員のなり手不足、教員未配置問題の深刻化、教員のメンタル休職者数過去最高、不登校児童生徒数過去最高」という結果に結び付いていると言える。9月議会では、教職員へのアンケート調査結果をもとに質疑をおこなった。

◆アンケート調査で把握されたこと

答弁 退勤時刻が過ぎても教員の本務としての仕事を、2時間以上行っている教員は小学校で3割、中学校で5割いる。引き続き「学校の働き方改革」を進める必要がある。

◆これからの水泳指導について

質問 各校の水泳指導は毎年多くても2〜3回しか行えない。使用頻度に比べてプールの維持管理費も高く老朽化も進んでいる。一方プール清掃など管理業務が多岐にわたり教職員の負担となっている。学校外プールを活用し、年間を通しての水泳指導の検討を…。

◆答弁

学校での働き方改革を進めるため、プールの維持管理のあり方の検討が必要である。プールの老朽化も進んでいることから、他自治体の状況を参考にして検討していく。

◆スクールロイヤーの配置について

質問 近年保護者から学校に寄せられるクレームが多く、その対応に教員が追われ、多くの

時間を費やしている。学校に「改善」や「対応」を求めることは当然あってよいし、学校は真摯に受け止めなければならない。しかし中には関係がこじれて、話し合いが進まない事例もあると聞く。教育委員会にスクールロイヤーを配置し、子どもの利益を念頭に、法律の見地から学校に助言を頂くことはできないか。

答弁 保護者からの過度な要求やクレームの対応で、教員が苦慮している。トラブルの未然防止、教員の負担軽減のために、他自治体を参考に検討を進めていく。

◆教職員の「実効性ある働き方改革」について
市長の答弁 教育の道を選ぶ若者が減少していることは大変残念である。教員を目指す若者にも希望を持ってもらえる働き方改革でなければならない。全力で支援していく。

校内の止まり木で、心を休めて…

一般質問より

昨年度の全国小中学校の不登校児童生徒数は、29万9048人で過去最多となった。10年連続の増加である。不登校児童生徒とは1年間に30日以上欠席した児童生徒のことだが、昨年の鎌倉市の不登校児童生徒数は287人で、全国同様年々増加している。

不登校児童生徒が抱える課題は様々だ。にもかかわらず、学校が判断した不登校の理由の過半数が、「無気力、不安」であることには合点がいかない。「無気力になる前に、何があったのか。」無気力に見える児童生徒の本当の気持ちを把握しなければ、「本来学校がどうあるべきなのか」「どのように支援するべきなのか」が見えてこない。

さて来年度から、鎌倉市では3年間かけて、「校内フリースペース」を設置していく。教室に入りづらい子ども、登校に困難を抱えている子ども達が、校内で心を休め、気持ちを受け止めてもらい、また教室に戻っていけるように支援する「止まり木のような部屋である」と教育委員会は表現している。このような受け止め方が共有されること願うばかりだ。

質問 校内フリースペースは、「校内で安心して過ごせる場」の確保であるが、「学校が本来どうあるべきか」を考えていく重要な取り組みであり、学校の在り方を学校自身が考えていく「拠点」ともいえる。教育長はどう考えるか。

教育長答弁 子ども中心、学習者に応じた学びを展開していく拠点の一つとなる。

●再質問をしたが、質疑がかみ合わず残念であった。





2 議案に反対しました。

◆議案第 49 号 鎌倉市廃棄物の減
量化、資源化及び処理に関する条例

の一部を改正する条例の制定→可決

●竹田は反対討論を行いました。

反対討論要旨 事業系一般廃棄物処理手
数料を 1.6 倍に改定することにより、

県内でトップの手数料となる。近隣市との均衡がとれ
ているとは言えない。また中小企業の倒産は、現在コ
ロナ禍を上まわるペースで増えている。社会経済情勢
をふまえた改定とは言えない。

◆議案第 51 号 一般会計補正予算 (第 5 号) →可決

補正予算額に「不登校特例校設置事業費」が含まれ
ているため、●竹田は反対討論を行いました。

反対討論要旨 不登校特例校の設置は市長提案による
ものだが、市長から独立した教育委員会で「政策決定」
がなされるべきところ、合意形成に至っていない。また、
不登校児童生徒が、学校に何を求めているか、なぜ不登校
になっているのか、その気持ち
に学校が辿り着くこともなく、不登校児
童生徒が不登校特例校への転籍を選ぶ
ことにつながりかねない。



否決から 10 カ月。この間、市が取り組んできたこと、すでに確認されていること。

市は市役所を深沢に移転させるために (理由は 39 号参照) 昨年 12 月議会で「鎌倉市役所の位置を定める条例」の改正 (案) を議題としたが、採決の結果、賛成 16、反対 10 で否決された。(出席議員の 2/3 以上の賛成が必要な特別議決案件のため) 反対理由の一つとして挙げられていたのが、「市民の理解が得られていない」というものだった。それをうけて、

●市民の理解を得るために取り組んできたこと。

1. 「市長と語る鎌倉のみらい」6 回 (延べ 149 人参加)
2. 「公共施設のあさって・おしゃべり会」25 回 (延べ 183 人参加)
3. ONE DAY PLAYPARK 市民対話 2 回 (延べ 55 人参加)
4. トークイベント (49 人)
5. ふれあい地域懇談会 8 回 (延べ 167 人参加)
6. 出前講座 5 回 (延べ 115 人参加)

◆市が行った説明会は 47 回、延べ 718 人の方々にご参加くださった。(9 月 22 日時点) ↗

◆2022 年度一般会計決算の認定について→認定

●竹田ゆかりは認定しました。

認定理由 鎌倉市立小中学校すべての学校の特別教室に空調設備設置が行われたことを評価した。

◆議会議案第 3 号 紙の保険証廃止について、見直しを求める意見書→可決 (竹田賛成)

◆議会議案第 4 号 带状疱疹ワクチンへの助成ならびに定期接種化を求める意見書→可決 (竹田賛成)

市役所が深沢に移転したのち、市役所跡地はどうなるのか？

現在の市役所は 1969 年に建てられ、築 54 年を迎える。当時の設計要旨には「自然の環境を背景に、史都鎌倉にふさわしい造形を表現し…」と記載され、意匠の部分では「落ち着いた景観に調和させ、和風様式をとった」と書かれている。現在市は、長寿命化等により現庁舎を残すか、建て替えをするか、結論を出していない。

現在、「市庁舎現所在地利活用基本計画中間とりまとめ」がホームページでも公表されているが、基本理念を「誰もが気軽に利用でき、つどい、まなび、つながる、魅力ある居場所として生まれ変わる」とし、導入機能は、図書館機能・市民活動スペース (ホール・集会室・ギャラリーなど)・行政サービス機能・民間機能などとしている。

それぞれの機能を十分に果たすためのスペースがとれるのか更なる検討が必要である。



●深沢地域周辺道路の混雑を心配する声に応じて「深沢地域周辺道路の整備計画」策定を目指し、交通量調査・交通量推計・周辺道路の課題整理・バスベイ整備の検討・交差点の右折レーン整備の検討・新設道路の設計・深沢小学校の西側道路の設計・深沢交差点改良の検討などを行っている。

●新庁舎建設予定地付近の液状化について心配する声が上がっているが…。

東日本大震災を踏まえて「改訂された基準」により、これまでの想定に加え、更に大きな地震を想定して検討を行った。その結果、新庁舎建設予定地付近は液状化しないことを、すでに確認済み。